



2026年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年2月13日

上場会社名 株式会社クオルテック 上場取引所 東
 コード番号 9165 URL <https://www.qualtec.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 友宏
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務経理部部长 (氏名) 大野 和彦 TEL 072 (226) 7175
 半期報告書提出予定日 2026年2月13日 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（個人投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期第2四半期（中間期）の業績（2025年7月1日～2025年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期中間期	2,059	6.8	209	33.8	208	34.3	135	45.6
2025年6月期中間期	1,928	12.0	156	△8.2	155	△0.1	92	△18.6

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期中間期	57.47	—
2025年6月期中間期	39.47	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期中間期	4,486	3,325	74.1
2025年6月期	4,346	3,277	75.4

(参考) 自己資本 2026年6月期中間期 3,325百万円 2025年6月期 3,277百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	0.00	—	37.00	37.00
2026年6月期	—	0.00	—	—	—
2026年6月期（予想）	—	—	—	37.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年6月期の業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,400	9.3	405	5.4	404	5.2	271	23.4	115.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年6月期中間期	2,350,000株	2025年6月期	2,350,000株
② 期末自己株式数	2026年6月期中間期	一株	2025年6月期	一株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年6月期中間期	2,350,000株	2025年6月期中間期	2,350,000株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、2026年2月20日に個人投資家向けの決算説明会を開催する予定です。決算説明資料は、本日（2026年2月13日）、TDnetで開示するとともに当社ウェブサイトに掲載いたします。なお、決算説明会の模様及び説明内容については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、一部に弱めの動きも見られますが、緩やかに回復していると考えられます。消費は、物価上昇の影響が残るものの雇用者所得の着実な増加を背景に底堅い動きを見せております。もっとも、中国経済の先行き懸念やウクライナ・中東等の地政学的リスク、米国関税の政策運営等、わが国経済を取り巻く世界情勢は依然として予断を許さない状況となっております。

一方、当社を取り巻く環境は、主要顧客が属する自動車業界においては、電動化推進の動きが活発になっております。環境問題に関する脱炭素化への取組も加速しており、特に電力消費削減技術としてパワー半導体が注目されております。パワー半導体は自動車やエネルギー産業での使用が拡大しており、今後も開発競争が続くと見ております。

このような状況下で、当中間会計期間の経営成績は、売上高は、信頼性評価事業と微細加工事業において増加し2,059,051千円（前年同期比6.8%増）となりました。営業利益は、研究開発を積極的に進めたことで、研究開発費の増加が影響したものの209,072千円（前年同期比33.8%増）となりました。経常利益は、208,831千円（前年同期比34.3%増）となりました。中間純利益は、前中間会計期間において投資有価証券評価損の計上を行っていたことから135,065千円（前年同期比45.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（信頼性評価事業）

信頼性評価事業では、環境試験において振動や塩水噴霧などの案件受注が好調に推移したことが業績を牽引しました。分析・解析や断面研磨においても引き続き順調な受注推移となっております。売上原価は、持続的な成長の重要な要因となる設備投資や2024年11月に行ったパワエレクトロニクスセンターの立上げにかかわる減価償却費のコストが増加しました。この結果、売上高1,773,899千円（前年同期比4.9%増）、営業利益561,954千円（前年同期比15.5%増）となりました。

（微細加工事業）

微細加工事業では、レーザ加工において量産品加工の通信関連の案件受注が好調に推移したことや、試作品加工でも堅調な受注獲得が出来たことで売上高が伸長しました。また、表面処理技術においては、主要顧客の素材関連の案件受注が好調に推移したことにより業績に寄与しました。この結果、売上高273,714千円（前年同期比30.1%増）、営業利益142,127千円（前年同期比51.0%増）となりました。

（その他事業）

その他事業では、バイオにおいて厚労省案件である医療用消耗品の信頼性試験が完了したことにより、売上高が縮小しました。この結果、売上高11,437千円（前年同期比56.7%減）、営業損失9,873千円（前年同期は営業損失11,221千円）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末における総資産は4,486,831千円となり、前事業年度末に比べ140,749千円増加いたしました。

流動資産は2,624,723千円となり、前事業年度末に比べ101,737千円増加いたしました。これは主に「仕掛品」93,273千円増加及び「現金及び預金」33,193千円増加によるものであります。固定資産は1,862,108千円となり、前事業年度末に比べ39,011千円増加いたしました。これは主に分析・試験設備等の取得に伴う「有形固定資産」70,726千円増加及び税効果会計上の一時差異解消等に伴う「投資その他の資産」27,339千円減少によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債は1,161,629千円となり、前事業年度末に比べ92,634千円増加いたしました。

流動負債は608,980千円となり、前事業年度末に比べ56,952千円減少いたしました。これは主に流動負債「その他」に含まれる未払消費税等38,199千円増加、リース債務32,565千円増加及び未払金120,454千円減少によるものであります。固定負債は552,649千円となり、前事業年度末に比べ149,586千円増加いたしました。これは主に固定負債「その他」に含まれるリース債務139,008千円増加及び「退職給付引当金」10,048千円増加によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産は3,325,201千円となり、前事業年度末に比べ48,115千円増加いたしました。

これは主に「中間純利益」135,065千円の計上及び剰余金の配当86,950千円によるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により420,245千円増加、投資活動により256,839千円減少、財務活動により130,322千円減少の結果、前事業年度末に比べ33,084千円増加し1,403,550千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は420,245千円（前年同期は135,800千円の増加）となりました。これは主に「減価償却費」220,544千円及び「税引前中間純利益」201,765千円の資金の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は256,839千円（前年同期は380,010千円の減少）となりました。これは主に分析・試験設備等の取得に伴う「有形固定資産の取得による支出」258,574千円の資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は130,322千円（前年同期は120,488千円の減少）となりました。これは主に「配当金の支払額」86,814千円及び「リース債務の返済による支出」28,507千円等の資金の減少によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期の業績予想については、2025年8月8日公表の業績予想に変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年6月30日)	当中間会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,535,006	1,568,199
受取手形	3,554	3,154
電子記録債権	69,305	93,796
売掛金	728,473	667,097
仕掛品	103,312	196,586
原材料及び貯蔵品	22,901	21,825
その他	69,447	83,118
貸倒引当金	△9,015	△9,053
流動資産合計	2,522,985	2,624,723
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	640,807	620,044
工具、器具及び備品（純額）	494,578	468,444
その他（純額）	428,229	545,853
有形固定資産合計	1,563,615	1,634,342
無形固定資産	27,120	22,744
投資その他の資産	232,360	205,020
固定資産合計	1,823,096	1,862,108
資産合計	4,346,082	4,486,831
負債の部		
流動負債		
買掛金	233	2,084
短期借入金	120,000	120,000
1年内返済予定の長期借入金	17,500	2,500
未払法人税等	56,858	57,492
賞与引当金	25,181	17,383
役員賞与引当金	9,200	5,266
その他	436,959	404,253
流動負債合計	665,933	608,980
固定負債		
退職給付引当金	158,333	168,381
役員退職慰労引当金	18,072	17,949
資産除去債務	117,878	118,193
その他	108,778	248,124
固定負債合計	403,062	552,649
負債合計	1,068,995	1,161,629
純資産の部		
株主資本		
資本金	392,100	392,100
資本剰余金	1,066,550	1,066,550
利益剰余金	1,818,436	1,866,551
株主資本合計	3,277,086	3,325,201
純資産合計	3,277,086	3,325,201
負債純資産合計	4,346,082	4,486,831

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
売上高	1,928,210	2,059,051
売上原価	1,355,293	1,362,093
売上総利益	572,917	696,958
販売費及び一般管理費	416,698	487,886
営業利益	156,219	209,072
営業外収益		
受取利息	8	195
物品売却益	6	1,641
その他	26	276
営業外収益合計	41	2,113
営業外費用		
支払利息	776	2,162
その他	21	191
営業外費用合計	797	2,354
経常利益	155,462	208,831
特別損失		
固定資産除却損	—	1,115
減損損失	—	5,949
投資有価証券評価損	10,175	—
事務所移転費用	1,962	—
特別損失合計	12,137	7,065
税引前中間純利益	143,325	201,765
法人税、住民税及び事業税	21,002	43,511
法人税等調整額	29,560	23,189
法人税等合計	50,562	66,700
中間純利益	92,763	135,065

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	143,325	201,765
減価償却費	145,605	220,544
減損損失	—	5,949
固定資産除却損	—	1,115
投資有価証券評価損益（△は益）	10,175	—
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△1,877	37
賞与引当金の増減額（△は減少）	△3,545	△7,798
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△5,008	△3,933
退職給付引当金の増減額（△は減少）	8,380	10,048
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	2,372	△122
受取利息	△8	△195
支払利息	776	2,162
売上債権の増減額（△は増加）	14	37,286
棚卸資産の増減額（△は増加）	△4,868	△92,197
仕入債務の増減額（△は減少）	2,162	1,851
未払金の増減額（△は減少）	9,335	25,148
未払消費税等の増減額（△は減少）	△23,603	38,199
未払費用の増減額（△は減少）	△53,486	9,362
その他	6,143	10,790
小計	235,893	460,014
利息の受取額	8	195
利息の支払額	△624	△3,762
法人税等の支払額	△99,476	△36,201
営業活動によるキャッシュ・フロー	135,800	420,245
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△110,911	△111,020
定期預金の払戻による収入	110,909	110,911
有形固定資産の取得による支出	△379,389	△258,574
無形固定資産の取得による支出	△844	—
その他	224	1,844
投資活動によるキャッシュ・フロー	△380,010	△256,839
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△15,000	△15,000
リース債務の返済による支出	△7,282	△28,507
配当金の支払額	△98,205	△86,814
財務活動によるキャッシュ・フロー	△120,488	△130,322
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△364,697	33,084
現金及び現金同等物の期首残高	1,738,234	1,370,466
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,373,536	1,403,550

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間（自 2024年7月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間 損益計算書 計上額 (注) 3
	信頼性評価 事業	微細加工 事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	1,691,387	210,394	1,901,781	26,429	1,928,210	—	1,928,210
外部顧客への売上高	1,691,387	210,394	1,901,781	26,429	1,928,210	—	1,928,210
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,691,387	210,394	1,901,781	26,429	1,928,210	—	1,928,210
セグメント損益	486,622	94,146	580,768	△11,221	569,547	△413,328	156,219

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオ、ゼロ・イノベーション等を含んでおります。

2. セグメント損益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント損益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間会計期間において、パワエレテクノセンター開設に係る工事や分析・試験設備等の取得等に伴い固定資産が増加し、前事業年度の末日に比べ、「信頼性評価事業」のセグメント資産が、269,086千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間会計期間より、組織シナジーの最大化を目的とした2024年7月1日付の組織変更に伴い、従来「その他」に区分していた表面処理技術を「微細加工事業」に変更しております。

Ⅱ 当中間会計期間（自 2025年7月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間 損益計算書 計上額 (注) 3
	信頼性評価 事業	微細加工 事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	1,773,899	273,714	2,047,614	11,437	2,059,051	—	2,059,051
外部顧客への売上高	1,773,899	273,714	2,047,614	11,437	2,059,051	—	2,059,051
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,773,899	273,714	2,047,614	11,437	2,059,051	—	2,059,051
セグメント損益	561,954	142,127	704,082	△9,873	694,208	△485,136	209,072

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオ、ゼロ・イノベーション等を含んでおります。

2. セグメント損益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント損益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間会計期間において、設備能力増強に向けた分析・試験設備等の取得等に伴い固定資産が増加し、前事業年度の末日に比べ、「信頼性評価事業」のセグメント資産が、139,739千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	信頼性評価事業	微細加工事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	5,949	—	5,949

(注) 「その他」の金額は、バイオに係る金額であります。